

# 日本 ハンザキ研究所 ニュース №1

発行 2006. 2. 28

〒679-3341兵庫県朝来市生野町黒川292

日本ハンザキ研究所 栃本 武良

## ハンザキ研の設立について

私は2005年 3月31日で40年に及ぶ水族館生活に別れを告げました。1975年から始めたオオサンショウウオの生態調査は31年を過ぎましたが、まだまだその生態は分からないことばかりです。4年前に姫路市を定年となり嘱託館長を勤めてきましたが、65才までの5年間は最後の体力勝負をかけて生態調査に費やすつもりで臨みました。しかし、最初の3年間は鳥根県立宍道湖自然館と兼任ということになり、職務の合間に16回18日、2004年度は6回7日の調査行しか実現できませんでした。それがフリーになった2005年度は今月末までに15回31日もの調査ができました。これは暇になったからでもあります、調査基地を設立することができたのが最大の理由です。

今までの調査は、当初のテント持参から、見かねた山小屋の主からの小屋の借用、次いで町営の宿泊施設の出現で民宿と共用しながら次第に生活レベル?が向上していったのです。しかし、宿泊代が高むことと無免許では調査用具一式など二十数万?を背負っては中々シンドイ行程になります。調査地の生野町は過疎化の波が迫っており、廃校が幾つかあると聞いていました。2005年 4月に朝来郡 4町は合併し朝来市となっていました、教育委員会に頼んで、数カ所の廃校を見せていただきました。その中で、調査フィールドの市川のほとりにある旧・黒川小学校は鉄筋の二階建て校舎が1992年に閉校になったまま良い状態で残されていました。

当初の考えでは、教室の片隅に調査用具を置かせていただき、ただ楽をしたいという程度にしか考えていませんでした。ところが、そこには教員宿舎として一戸建ての建物が敷地内にあったのです。見せていただくと、その日からでも使える程きれいに保存されていました。早速、これを借用する依頼書を提出し許可になりました。それが2005年 8月のことです。その月末から調査に使いはじめましたが、十数年間ライフラインの切れていた施設ですので、ガスランプとカセットコンロに寝袋という、テントの代わりに屋根と壁があるだけの野営状況でした。水は谷川からポリタンクで運びましたが、下水のほうは難儀なことで、あちこちに穴を掘り富栄養化させてしまいました。陸の赤潮生物の一員としてじゅくじたる思いを噛みしめたのです。それも、やがて電気とガスが付き、12月には上下水が整備され、最低ラインの確保ができました。これも年金生活者には無理な整備ですので、バックアップしていただいたNPO法人地域再生研究センターの皆様方のお陰と感

謝しています。

さて、このように基地が整備されると次に考えたことは、夢のような大きな望みです。開館以来40年も住み着いていた水族館には、山のような荷物が出来てしまっていました。館長室を明け渡すべく3月31日も残業？して私物の放り出しをしました。が収容する所がありません。とりあえず、一年間はその辺に荷を置かせていただき順次片付けるのでという約束をしました。間もなくその期限が来ようとしています。自宅にはすでに収めるスペースは無く、近所のガレージを借りたものの、ここにも全く納まりそうもありません。そこで考えたのは校舎にある教室です。40年間に集めた水族関係の蔵書やオオサンショウウオに関する報告書・資料を散逸させること無く、一か所に集めておけば、皆さんに利用していただけるのではないかと考えたのです。地域の方々にも公開してオオサンショウウオについて理解を深めていただければさらにその保護にも繋がっていくと思いました。幸いなことに本棚などの備品類も合併して余分になった旧・4町役場からのものを頂くことができました。目下校舎の一階教室を借用して収納する準備を進めているところです。

その他、校庭には児童用のプールが大小2面残されており、これに河川水を汲み込めばオオサンショウウオの緊急保護施設にすることができるのと、滅菌装置の入れられていた施設小屋がありますので、流出卵や幼生の収容育成水槽を設置することもできます。兵庫県の中山間部における河川工事にはオオサンショウウオの存在を抜きに考えることはできません。平成2年の養父町建屋川、平成16年の出石町・但東町の出石川と大きな災害が襲い共に大規模な本種への対策工事が考えられました。同様の事態は今後もあり得ることで他の小規模な工事においてもオオサンショウウオの緊急保護に役立つことは明白です。また、体育館もこじんまりした佇まいで残っており、100名程の集会や研修会講演会、研究会そして学会等の誘致も可能になるでしょう。校庭には10坪程の自炊・バーベキュー場がある。校庭は十分な広さがあるので駐車場やキャンプ場に使うこともでき、山野草栽培や植物園化も考えられるのです。校庭から河川敷へ下りると水裏になる部分に広い丸石河原が形成されており、ここへのアプローチが整備されれば、河川環境についての現場体験ができるようになります。反対側には水の当たる部分が深い淵を作りだしているのです。水遊びにも絶好のロケーションを示しています。この一角は国道からの橋一つで隔離されており学校敷地以外は山で囲まれて何も無いという素晴らしい立地条件になっています。財政難のこの時代になかなか自治体も箱物への予算を投じにくい状況にあるでしょうし、バックアップを期待する組織にしても同様だが地域の住民の盛り上がりも重要なポイントになっていくものと考えられる。地元には幾つかの町おこし活動団体もあり、地道に一步一步進めていきたいと考えています。第一歩目はハンザキ研究所の開設ということで進めることが出来ました。校舎部分の整備が2年目の大きな目標になります。これからオオサンショウウオの生態調査を目指す人達へ多少なりとも役立ち地域の活性化に貢献でき、子供たちに自然環境の素晴らしさを満喫してもらえらる場にしていきたいと考えているところです。

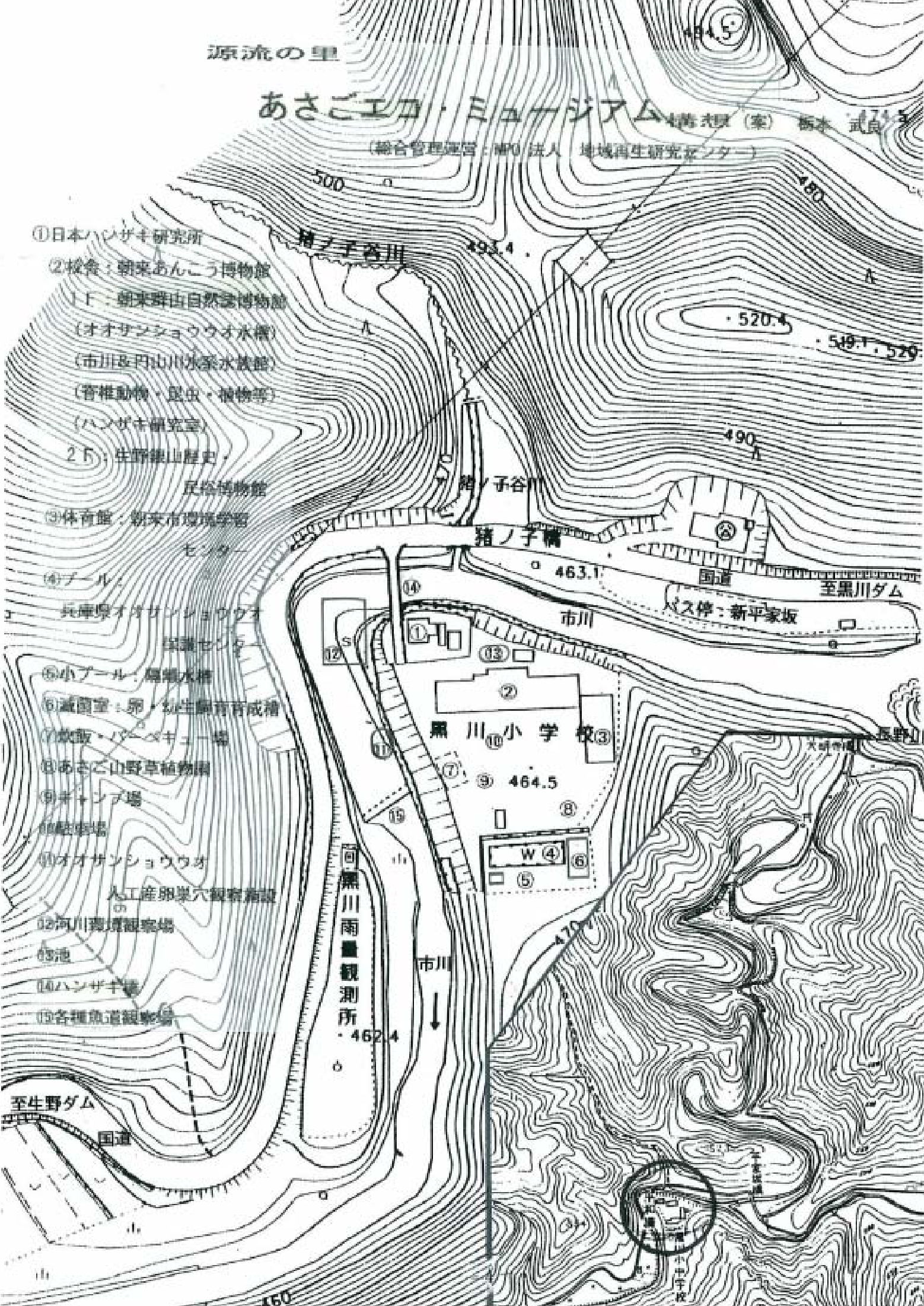
## ハンザキ研における2005年度日誌

- 8月30-31日：ガスランプとカセットコンロを持参した調査で、初宿泊する。  
5個体確認し、4個体測定、1個体が新規登録であった。(栃本1名)
- 9月 9-10日：電気とプロパンガス入る。文明の利器は明るく便利でした。  
8個体確認し、7個体測定、2個体が新規登録であった。(栃本1名)
- 10月 7- 8日：10個体確認し、9個体測定、8個体が新規登録であった。(栃本1名)  
昼間から日没直後にかけて、日本工科専門学校の学生実習指導(8名)  
29-30日：22個体確認測定し、20個体が新規登録であった。(栃本1名)
- 12月 3- 7日：上下水道が整備され初の5日間連続調査を計画したが、2夜は降雪により雪見酒に終わる。3日兵庫県但馬県民局の「よみがえれ！出石川」リバーズ・プロジェクトと4日豊岡市新田小学校「新田感謝祭」で講師を5日豊岡市立高橋小学校で「総合学習研究発表会」で講評を行った。7日には朝来市黒川地区における「地域協議会」が実施された。  
5日夜6個体確認し、内1個体は1時間後の再捕獲で、4個体登録  
6日夜は1個体測定で、これも新規登録であった。(栃本1名)
- 24-25日：積雪70cmという、年内における久しぶりの大雪で国道は除雪車がすぐに出勤するので問題はないが、研究所へ渡るハンザキ橋が除雪の壁で、これ乗り越えて50m程のラッセルはなかなか大変な作業であった。12月中の気温は5℃～-10℃で、水温は0℃～1℃である。年末に調査を実施したのは、上下水道の凍結破損事故を心配したからで、台所の流しの水道の横振り部が氷に押し出されて落下していた。配管の最も端の洗面所の蛇口は流しっぱなしにしておいたので無事だったが、トイレでは水洗タンクも便器内も凍結。ガス給湯器本体はヒーターがあるので破裂することはないが、給水のつなぎ部分が凍結寸前で水圧がかからぬために着火せず、氷水のような水しか出なかった。なかなか厳しい環境を実感させられたが、ひと冬過ぎれば越冬のコツはつかめそうだ。
- そんな中で、地域の役員10名が集まったの協議会が開かれたのは、地元の人々にとっては過疎化は重大な将来への課題になっているからだろう。NPO法人地域再生研究センターのスタッフと共に次ページのような「私のユメ」の話をしたが、役員の一人は「私たちにとっても実現させたいユメです」と言った。これは大きな力であり、私自身もこの30数年間には色々世話になりオオサンショウウオを通じて多少なりともお役に立ちたいものと思いをさらに強くした。真っ暗な夜道を山奥深き自宅へ走る時に懐かしい小学校の一角に灯が見えるようになってホッとしたともいう。

# あさごエコ・ミュージアム構想 (案) 橋本 武良

(総合管理運営：NPO 法人 地域再生研究センター)

- ①日本ハンザキ研究所
- ②校舎：朝来あんこう博物館  
1F：朝来群由自然史博物館  
(オオサンショウウオ水槽)  
(市川&内山川水系水族館)  
(脊椎動物・昆虫・植物等)  
(ハンザキ研究室)  
2F：生野集山歴史・  
民俗博物館
- ③体育館：朝来市環境学習  
センター
- ④プール  
兵庫原オオサンショウウオ  
保護センター
- ⑤小プール：扇形水塔
- ⑥減温室：卵・幼生飼育育成槽
- ⑦炊飯・パン・ベキュー場
- ⑧あさご山野草植物園
- ⑨キーンア場  
館駐車場
- ⑩オオサンショウウオ  
人工産卵巣穴観察施設
- ⑪河川環境観察場
- ⑫池
- ⑬ハンザキ橋
- ⑭各種魚道観察場



至生野ダム  
国道

黒川雨量観測所  
462.4

黒川小学校

国道  
至黒川ダム  
バス停：新平家坂





ハンザキ研究所とハンザキ号 調査中ののほり駅



ハンザキ研究室 (準備中)



雪に埋もれるハンザキ橋



こじんまりとした体育館



ハンザキ橋から見下ろすとオオサンショウウオが昼間から



25mプール